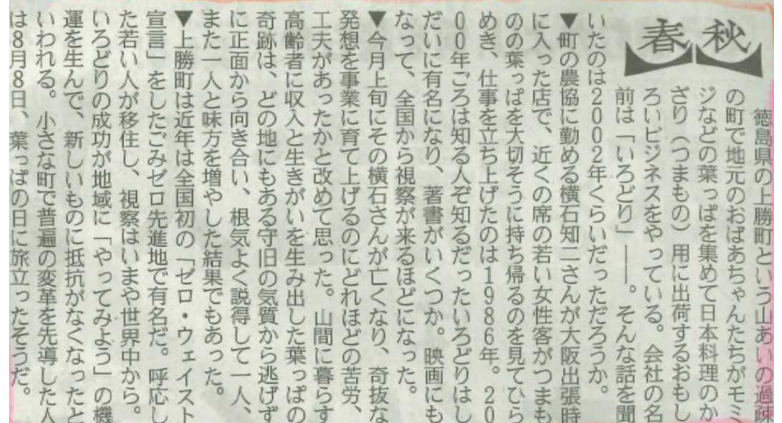


緩和ケア病棟 23年の軌跡

1. 彩り食

2002年5月緩和ケア病棟開設。食事が重要な治療であることが分かり、当院の栄養科は地産地消の食材を用いて、色々な料理を少量ずつきれいな食器に盛り付けました。食べられない人は目で食事を楽しんでいただける工夫し「**彩り食**」と名付けました。上勝町の会社が「**いろどり**」の葉っぱビジネスが全国で話題になっており、名称をまねさせて頂きました。

日本医療機能評価の審査では連続して「S」の評価をいただいています。



2025年8月24日日本経済新聞コラムに「いろどり」を立ち上げた横石知二さんを追悼文が掲載されていました。横石さん有難うございました。ご冥福をお祈りいたします。

2. 快適な病院空間

2025年4月から始まっているNHK連続テレビ小説「あんぱん」が高視聴率です。2002年に新築した近藤内科病院は、高知県香北町にあるアンパンマンミュージアムに続いて「早稲田大学教授古谷誠章先生、ナスカ」の設計による建物で、古谷先生の代表作です。



病院に入ると治ったような気分になるというリクエストに応えた病院空間です。患者家族の皆様のみならず病院スタッフもこの空間に癒されています。日本医療機能評価連続「S」評価です。病院の裏のホスピスガーデンでは毎年**緩和ケア週間前夜祭**が盛大に開催され、年末には恒例の餅つき大会が行われています。

3. 23年間の緩和ケア病棟でのがんの統計

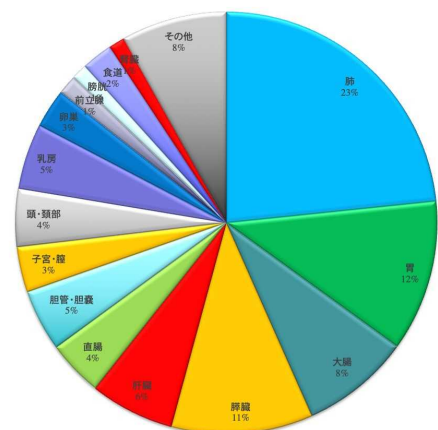
「ホスピス徳島」における23年間の患者動態 (2002.4.1-2025.3.31)

新入院患者総数 3963 名 新退院患者総数 4007 名
死亡退院

H14年度 2002.4.1-2003.3.31	70	H26年度 2014.4.1-2015.3.31	137
H15年度 2003.4.1-2004.3.31	79	H27年度 2015.4.1-2016.3.31	190
H16年度 2004.4.1-2005.3.31	93	H28年度 2016.4.1-2017.3.31	149
H17年度 2005.4.1-2006.3.31	98	H29年度 2017.4.1-2018.3.31	130
H18年度 2006.4.1-2007.3.31	111	H30年度 2018.4.1-2019.3.31	123
H19年度 2007.4.1-2008.3.31	113	H31/R1 2019.4.1-2020.3.31	107
H20年度 2008.4.1-2009.3.31	112	R2年度 2020.4.1-2021.3.31	103
H21年度 2009.4.1-2010.3.31	127	R3年度 2021.4.1-2022.3.31	118
H22年度 2010.4.1-2011.3.31	141	R4年度 2022.4.1-2023.3.31	113
H23年度 2011.4.1-2012.3.31	146	R5年度 2023.4.1-2024.3.31	140
H24年度 2012.4.1-2013.3.31	149	R6年度 2024.4.1-2025.3.31	133
H25年度 2013.4.1-2014.3.31	135		

計 2817 名 (70.3 %)

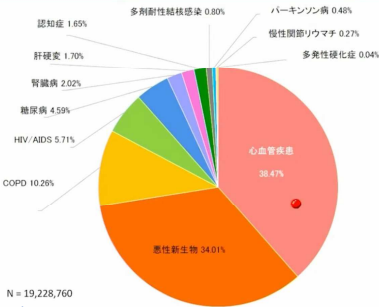
部位別癌患者の占める割合 (2002.4.1-2025.3.31)



4.心不全の緩和ケア

「緩和ケアが必要なすべての人に」が今年の世界ホスピス緩和ケアデーのテーマです。死亡原因第1位の心不全の緩和ケアに2019年から近藤内科病院では取り組んでいます。

終末期に緩和ケアが必要とされる疾患 心血管疾患は1位



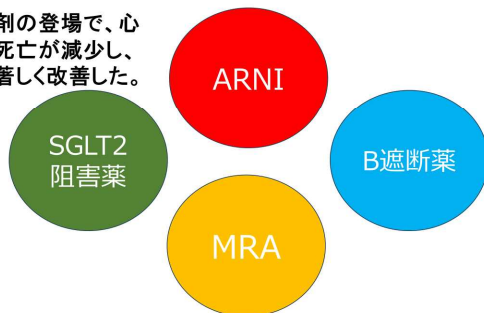
緩和ケアの定義 (2002年世界保健機関)

- Palliative care is an approach that improves the quality of life of patients and their families facing the problem associated with life-threatening illness, through the prevention and relief of suffering by means of early identification and impeccable assessment and treatment of pain and other problems, physical, psychosocial and spiritual.
<http://www.who.int/cancer/palliative/definition/en/>
- 生命を脅かす疾患**による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、QOLを改善するアプローチである。

緩和ケアの対象患者はがんに限定されるものではない。

Fantastic4 (すてきな4薬剤) 2023年 心不全 (HFrEF) 治療の基本薬剤

新規薬剤の登場で、心不全の死亡が減少し、予後が著しく改善した。



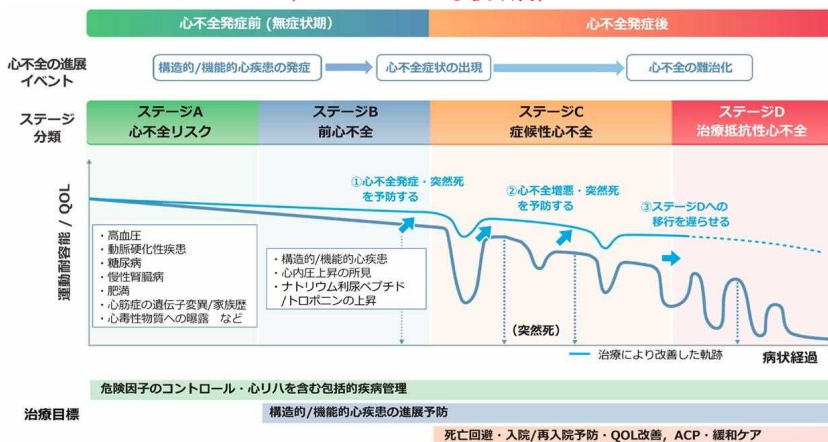
近藤内科病院での心不全入院患者数および転帰

2018.6~2019.5			2019.6~2020.5			2020.6~2021.5		
	退院患者	死亡患者		退院患者	死亡患者		退院患者	死亡患者
計	24	3	計	14	2	計	25	0

2021.6~2022.5			2022.6~2023.5.21			2023.6~2024.5		
	退院患者	死亡患者		退院患者	死亡患者		退院患者	死亡患者
計	27	0	計	42	1	計	29	2

2024.6~2025.5		
	退院患者	死亡患者
計	20	2

心不全ステージの治療目標と病の軌跡 (2025心不全学会ガイドライン) (Fantastic 4 での予後改善)



日本緩和医療学会第7回中国・四国支部学術大会
日時：令和7年9月6日 場所：徳島大学病院

シンポジウム1 心不全の緩和ケア

座長 片岡 秀之 (徳島県立中央病院 医療局長)

- 急性期病院での取り組み
小倉 理代 (徳島赤十字病院 循環器内科)
心理士が支える心のケア
元木 増代 (徳島赤十字病院 臨床心理士)
持続できるチーム医療をめざして
得松 美月 (愛媛大学医学部附属病院)
薬剤師から見た薬物療法の課題
小林 真也 (近藤内科病院)
専門クリニックでの診療の現状
坂東 正章 (坂東ハートクリニック)
緩和ケアを“特別”から“標準”へ
大石 醒悟 (真星病院 副院長/地域包括ケア部長)

2025年の心不全学会ガイドラインでは、「ファンタスティック4」による治療効果により、心不全患者の予後が大きく改善しています。また、今年9月に徳島で開催された中四国緩和医療学会シンポジウムでは、初めて心不全の緩和ケアが議論されました。心不全の患者さんは高齢で多病を抱えることが多いため、自己決定支援においては、従来の狭義のACP (アドバンス・ケア・プランニング) だけでなく、「人生会議」と呼ばれる広義のACPが今後ますます重要となります。さらに、多職種や地域との連携を強化し、患者さん・ご家族との情報共有を充実させることが求められる時代になってきました。

ACPについて家族や医療関係者にぜひ相談しましょう

5. 『人生の最終段階における肺炎』 治療・緩和ケア

「人生の最終段階における肺炎治療の考え方」

現在急増している肺炎に対して当院では2024年日本呼吸器学会成人の肺炎にガイドラインに沿ってケアを行っています

項目	主な対応内容
医学的治療（標準治療）	・ 抗菌薬投与（ガイドラインに基づく） ・ 呼吸リハビリテーション ・ 嚥下訓練、食事療法
生活の質（QOL）支援	・ 呼吸苦、不安への対処（必要時モルヒネなど） ・ 点滴、処置の適切な選択 ・ ACP（事前ケア計画）
統合的アプローチ	・ 治療と緩和の両立：「その人らしさ」を大切にした選択を支える

「チーム医療」



「多職種連携」

当院において肺炎、誤嚥性肺炎、反復性肺炎治療に必要である「診断」「治療」「サポート」は上記のスタッフが担当し、他職種連携を図って、質の高いケアを提供しています。

6.コンパッショネイト・ホスピタル

コンパッショネイト・ホスピタルとは

Compassionate Hospital は、「思いやり（Compassion）」を医療の中心に据え、患者さん・ご家族・地域に寄り添う病院のあり方を示す理念です。

ホスピス緩和ケアとは ～その人らしさを支えるケア～

- ・ホスピス・緩和ケアは、病気の進行に伴う痛みやつらさを和らげ、心と体の両面から支える医療です。
- ・「治す」ことだけでなく、「その人らしく生きる」ことを大切にします。



ホスピス徳島の緩和ケア

- ・当院では、医師・看護師・薬剤師・医療ソーシャルワーカー・院内ボランティアが一つのチームとなり、患者さんにご家族を支えています。
- ・必要に応じて地域の病院や在宅医療チームと連携し、切れ目のない緩和ケアを提供しています。
- ・コンパッショネイト・ホスピタルの理念のもと、患者さんにご家族の尊厳を守り、思いやりをもって寄り添う医療を目指してしています。
- ・医療者だけでなく、地域の皆さんとともに「安心とつながりのある病院」を目指します。

訪問看護・訪問電話

- ・安心して在宅療養を継続していただくために、病棟看護師が、電話で日常生活の様子や相談などを行っています。
- ・他の訪問看護ステーション以外に、当院の訪問看護師と共に、病棟から看護師が自宅に訪問しています。



患者さんと家族の声

「ここに入院してよかった」「家に帰って、看護師さんが家にきてくれて、良かった」「電話してくれるんですか。安心です。」

- ・これは、私たちがいただいた患者さんやご家族からの言葉です。
- ・その一つひとつが、私たちの原動力になっています。

ティーサービスと季節行事

- ・週1回、デザートとドリンクを提供しています。季節を感じられるような行事も行っています。
- ・コロナ感染症対策のため、季節行事を縮小していましたが、今年のお月見お茶会では、久しぶりに行事を行うことができました！



医療法人若葉会

近藤内科病院

Kondo Hospital